



《地域防災計画研究会について》

東日本大震災の発生後、多くの自治体で地域防災計画の大規模な見直しが行われております。計画見直しの主たる目的は、国の計画の変更、東日本大震災の教訓を踏まえた内容の更新ですが、いくつかの自治体では、地域防災計画を使い易く、実効性が高いものにするために、計画の構成、記述スタイルの大幅な見直しが行っています。

地域防災計画の策定主体は自治体ですが、実際の改定作業は、専門性を持ったコンサルタントにより行われております。地域防災計画策定に関わるコンサルタントの皆さんの能力向上をはかることが、地域防災計画をより良いものとし、その結果として地域の防災力の向上に資するものと考えます。しかし、地域防災計画の策定は業務として受注されているため、その成果を公表し、良い計画を世に問う・共有するということが行われておらず、また地域防災計画の業務に関わる専門家相互の情報共有を行う機会も存在しないのが現実です。

いくつかの地域防災計画の改定作業に関わらせていただく中で、「良い地域計画防災計画」を共有、さらには多くの実務経験を持つみなさんと共に今後の地域防災計画のあり方について考えるような場をつくることが重要だと考えるに至りました。ただ、業務として実施されている限り、学会等オープンな場で情報共有を行うことは現実的には難しいかと思えます。クローズな研究会として地域防災計画についての情報共有・さらには今後のあり方についての検討の場をつくりたいと思えます。